

研究タイトル：

地域通貨を用いたコミュニティづくりと金融教育



氏名： 宮崎 義久 / MIYAZAKI Yoshihisa E-mail: y-miyazaki@sendai-nct.ac.jp

職名： 助教 学位： 博士(経済学)

所属学会・協会： 進化経済学会, 経済学史学会, 経済社会学会, 地域活性学会, ロバート・オウエン協会

研究分野： 地域研究, 進化経済学, 経済思想史

キーワード： 地域通貨, 内発的発展, 社会調査, 経済学の制度化

技術相談
提供可能技術：
・自治体やコミュニティにおけるアンケート調査とデータ分析の支援
・地域通貨等を活用したコミュニティづくりの支援
・ゲーム等を用いた金融教育の支援

経済学
特別経済学

研究内容：

研究課題

- 地域通貨を活用したコミュニティづくりの内発性の解明
- ゲーミフィケーションを活用した金融教育の効果検証
- 経済学者としての早川三代治を通じた日本近代経済学発展史の研究



研究シーズ

私の主な研究対象は、貨幣あるいは金融のしくみとコミュニティとのつながりを考えることにあります。そのなかでも、「地域通貨」を中心に、理論・実証・政策を架橋するような研究を進めています。

地域通貨とは、お金のように通常のお金とは異なる地域活性化のツールであり、ヒト・モノ・カネ・情報の域内循環を促進するためのつなぎ役としての役割を持っています。現在までに確認されているだけでも、国内でおよそ 800 種類以上の地域通貨が登場し、域内経済やコミュニティ活動を支援してきましたが、その効果や課題はまだまだ検証の余地があります。また、近年目覚ましい発展を遂げ、注目を集めているビットコインに代表されるような「仮想通貨」(または暗号通貨)などの動向や活用方法にも対象を広げています。

今後は、地域通貨だけに限定せず、幅広いテーマで研究・教育活動を進めていくことができると考えております。特に、地域住民を主体とした住民自治組織や地域づくりの調査研究および支援、ゲーミングの手法などによる金融教育にも着手したいと考えています。そのほか、経済学説・思想史の研究も行っており、現在は「経済学の制度化」を中心に、日本経済思想史の研究にも取り組んでいます。

以下は、最近発表した主な論考ならびに報告書になります。

- ・宮崎義久ほか(2016)「地域通貨の進化の解明に向けた分析枠組みの提示—全国調査に関する先行研究の検討を通じて—」『進化経済学論集』(進化経済学会), 20, 1-13 頁。
- ・宮崎義久(2016)「お金の地産地消を考える(前編)—『エンデの遺言』から読み解く—」『SEA PORT WALTZ: 小樽商工会議所会報』467, 25 頁。
- ・宮崎義久(2016)「お金の地産地消を考える(後編)— おたるの地域通貨 TARCA プロジェクト —」『SEA PORT WALTZ: 小樽商工会議所会報』468, 25 頁。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	